## すみだのものづくりをもっと知りたい！

### すみだ3M（スリーエム）運動

墨田区のものづくりや文化に関する資料などをお見せする「小さな博物館（Museum）」、優れた技術を持ち、その技術を広く伝える職人「すみだマイスター（Meister）」、製品をつくる場所と、お店が一体となった「工房ショップ（Manufacturing shop）」。

「M」を頭文字に持つ3つの取組を通じて、区のものづくりの魅力を届け、より素敵なものづくりの文化を育むことを目指しています。

3M Museum Meister Manufacturing shop

### すみだモダン

世界に通ずる「ものづくりのまち」としての地位を確立するため、「すみだモダン」を展開しています。その定義は「ものづくりを通して、未来のスタンダードを創造し、人々の幸せを育む活動」。「コミュニティ運営（つながる）・新商品開発（つくる）・プロモーション（つたえる）」の３つを柱として「こころ、ゆさぶる。」事業を推進しています。

こころ、ゆさぶる。
すみだモダン


**お問い合わせ**

墨田区産業観光部産業振興課
〒130-8640
東京都墨田区吾妻橋一丁目23番20号
03-5608-1437



令和４年３月発行

参考資料：「はばたき（墨田産業年譜）」
墨田区 1987年
「メイド・イン・トーキョー」
関満博（株）新評論 2019年
画像提供：すみだ郷土文化資料館
馬杉真理子

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C121784


# SUMIDA Monodukuri and Culture

すてきな
デザイン、
機能を届ける
まちの「いま」

ものづくりのまちで
出会ってほしい

**すみだの逸品 book**

What is Sumida?

# とっておきに出会えるまち すみだ

日々の生活で目にするもの、使うもの、身に着けるものを、どんなところに惹かれて選んでいますか？

見た目や値段はもちろんのこと、他の製品にはない機能があったり、思ってもみなかった、こだわりが詰まった製品だと、毎日の暮らしの「とっておき」にしたくなるような、そんな愛着が湧いてきて、手にする方も多いのではないでしょうか。

同じ気持ちの方は、もしかしたら「Made in すみだ」の視点から、素敵なもの、人、場所との出会いが広がっていくかもしれません。

実はここ、墨田区は江戸時代から続くものづくりのまち。ほかにはないデザイン、機能を持つ製品が日々生み出されています。

この冊子を通じて、その世界を少し、のぞいてみませんか？

Sumida for the first time

# はじめてのすみだ

ものづくりの広がり6つのポイント

## 01 武家屋敷がきっかけで進んだ南部の工業発展

墨田区を歩いてみると、北部（向島）と比べて南部（本所や両国）は、区画が整理され、道が広い印象を受けるかもしれません。

その背景には、江戸の町が大きくなるに従い、本所に武家屋敷がやってきたことが関係しています。隅田川に両国橋が架けられ、墨田区は江戸市中と結ばれるとともに、火災対策で建物の間隔が広く取られ、本所の街や運河が整備されていきます。

街がにぎわうとともに、隅田川や運河の水利を活かし、瓦やレンガ、染色などの産業が発達しました。明治に入ると、本所には中小の工場が集まるようになり、明治半ば以降に作られた大規模な工場とともに、墨田区は工業地帯として発展していきます。

江戸時代のレンガ作り

## 02 「墨堤の桜」と向島のにぎわい

1717（享保2）年、8代将軍・徳川吉宗が隅田川沿いに桜を植樹して生まれた「墨堤の桜」。お花見の時期には、大きなにぎわいをみせた向島は、渡し船で浅草の吉原などの芸妓と訪れることができたことも関係し、明治後期から大正時代にかけて、今でも多くの芸者衆を擁する「向嶋花街」に発展しました。

江戸時代以来の繁華街の浅草に近かったこと、向嶋花街の存在などもあり、墨田区内、特に関東大震災後、急激に都市化した向島に工房を構える職人が増えていきました。

現在でも、墨田区伝統工芸保存会をはじめとする職人たちが、手仕事の魅力を届けています。

例えば工房ショップ「向島めうがや」は、向島花街に縁が深い、一人ひとりの足の特徴に合わせた「御誂え足袋」を生み出す職人・石井さんのお店です。最近では、思い思いの生地を持ち込み、自分だけのとっておきの足袋をオーダーする若い方も増えているそうです。

向島めうがや

## 03 川の豊かさが育んだ「革づくりのまち」「石けんのまち」

製造工程で必要になる大量の水がある川の豊かな地域で、明治時代ごろより浅草から移転する人が多かったことがきっかけで、革づくりが盛んな墨田区。日本エコレザー認定第1号、環境と人にやさしい革づくりを行う山口産業など、北部に工場が集まっています。

原料となる動物の脂を、水運を利用して運びやすかったことも関係し、油脂・石けんの工場も、墨田区には多くありました。現在でも、花王石鹸や松山油脂などの企業が活躍する、油脂・石けんづくりが盛んなまちでもあります。

1950年代 ミツワ石鹸

山口産業

松山油脂

## 04 震災、戦争に伴う被害を超えて

江戸時代以来の水害に加え、1923（大正12）年の関東大震災に伴う火災では南部のほぼ全てが、1945年（昭和20）年の東京大空襲では、南部のほぼ全てと北部の半分ほどが焼失した墨田区。現在のセイコーやアサヒビールの工場など、区内企業も大きな被害を受けました。

度重なる被害を超えて、いまも活動し続ける企業の一つが、両国にある東屋です。小さな博物館「袋物博物館」のある東屋の社屋は、東京大空襲の被害を免れて残る貴重な場所でもあります。館長の木戸さんからは、江戸時代の煙草入れをはじめとする「袋物」の歴史はもちろんのこと、両国の歴史についても、お話を聞くことができます。

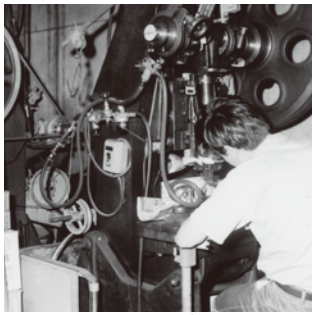
関東大震災・吾妻橋周辺のようす

袋物博物館

## 05 経済成長とともに、工場数がピークに

1950（昭和25）年以降、朝鮮戦争がきっかけとなった「朝鮮特需」による好景気とともに、独立創業が増加した墨田区。区内では、特に戦前から盛んな産業で復興を果たした繊維、金属や機械などの生産が活発になります。高度経済成長期の1970（昭和45）年には、区内の製造業の事業所数は、ピークの9703か所に達します。

1950年代 工場がひしめく墨田区


1970年代 八広の金属プレス工場

## 06 新たなものづくりの広がりを続けるまち　すみだ

1950年代以降、新たな大工場の建設規制や用地の不足、バブル経済の悪化等の影響を受け、区内工場が減少していきました。1970年代後半以降、日本で初めて、中小企業への支援体制の確保について条例を制定したことを大きな契機とし、墨田区の大切な存在である「ものづくり」の魅力を残し、届けるための活動が始まっていきます。

さらに近年では、他社ブランドの製品だけでなく、自分たちでも製品を届けるファクトリーブランド「IKIJI」をはじめ、国内外で愛される「ものづくりのまち　すみだ」の世界が、新たな広がりを見せています。

製造現場を見ることができ、中には製作体験もできる「工房ショップ」や、ものづくり作家やすみだの人気飲食店が集まる「ものコト市」、区内のガラス製品が集う「ガラス市」など、墨田区だからこそ出会える機会も、あなたを待っています。ぜひ、あなたに合った方法で、すみだのものづくりを感じてみてください。

ガラス市

ものコト市

chapter 01

わたしたちのまちのものづくり

# 伝統工芸

雛人形ではなかなかできない、気軽に触れる江戸木目込人形です

## 江戸木目込人形 塚田工房

江戸木目込人形 塚田工房
塚田　真弘さん

飾って眺める「おひな様」などで知られる江戸木目込（きめこみ）人形ですが、この「力士ペーパーウェイト」は、「気軽に触って使えること」を目指した商品です。モデルは土俵下で出番を待つ、重量感のあるお相撲さん。両国江戸NORENなどで目にした際には、手描きだからこそ生まれる表情の違いにも、ぜひ注目してください。

### POINT 江戸木目込人形のここが歴史的！

京都で始まった「木目込人形」の技術が江戸に伝わり、細めの顔立ち、くっきりした目鼻立ちという特徴を持った「江戸木目込人形」。1841（天保3）年に本所両国に創業した人形師「初代名川春山」の技術、技能を継承する6代目の塚田詠春さん、7代目の塚田真弘さんは、向島に工房を構え、その魅力を届けています。

**江戸木目込人形 塚田工房**

住　　所　東京都墨田区向島２丁目 11-7

製作体験（要予約）も行なっています！
#すみだ3M運動

▲WEB　▲Instagram

chapter 02

わたしたちのまちのものづくり

# アパレル

長く楽しんでいただきたいから、着やすさと耐久性を備えました

## 株式会社10YC

株式会社10YC
下田 将太さん・後 由輝さん

「10年着続けたいと思える」ことを目指して作られた10YC（テンワイシー）のTシャツ。着心地がよく、1000回洗濯実験を経てもほぼ型くずれしなかった、毎日着たくなる商品です。たとえ色あせても、愛着が蘇る染め直しサービス「IROHEN」など、売って終わりではない10YCならではの活動も大きな魅力。Webサイトからも、その想いに触れることができます。

### POINT メリヤスのここが歴史的！

江戸時代から、墨田区南部は手袋などのニット（メリヤス）作りが盛んな地域でした。明治時代には、機械で編む洋服づくりを始める工場が多くなり、日本有数のメリヤス製造のまちになりました。現在でも、優れた技術で服づくりを行う会社が多く活動しています。10YCのTシャツも、墨田区の（株）小倉メリヤス製造所で製造されています。

**株式会社10YC**

住　　所　墨田区両国4-8-1 ダイユービル2F

ウィメンズ商品もあります！
#10YCウィメンズ

▲WEBSHOP　▲Instagram

chapter 03

わたしたちのまちのものづくり

# 皮革・革製品

加工や染めに気を配ることで、洗えるようにできた革製品です

## トウキョウレザーファクトリー

洗える豚革で作られた「ウォッシャブルレザーバッグ」。洗うたび、使用するたび生じる、色や風合いの変化を楽しめます。他の革より傷つきやすく、使用できる箇所が限られる豚革ですが、革の裏面をスエード加工し、無駄なく使用したエシカルな商品でもあります。革づくりの職人でもある、素材を熟知した加藤さんの視点が詰まった商品です。

トウキョウレザーファクトリー
加藤　雅信さん

### POINT 豚革のここが歴史的！

墨田区は世界有数の豚革の産地。その革づくりには大量な水を必要とするため、荒川沿いの八広などで19世紀後半（明治中期）から豚革が生産されてきました。現在も、独自の技術を駆使した、特色溢れる革の素材づくり、革製品づくりが、墨田区で続いています。

**トウキョウレザーファクトリー**

住　　所　墨田区京島 1-8-8（事務所）

ショルダーバックやお財布も販売中！
#すみだモダン

▲WEBSHOP　▲Instagram

chapter 04

わたしたちのまちのものづくり

# 金属加工・製品

日本の職人でなければできない、機能美を追求した製品です

## 昌栄工業株式会社

鉄にガラス質をまとったホーロー製品のブランド「kaico（カイコ）」のドリップケトル。200回以上も湯口の調整をして生み出された、お湯と雫が狙った場所に垂直に落ちる心地よさが人気の逸品です。手になじむ持ち手で、お湯の注ぎ加減を繊細に調整できます。ハンドドリップで美味しい珈琲を淹れたい方には、ぜひ使っていただきたいです。

昌栄工業株式会社
昌林　賢一さん

### POINT 金属製品のここが歴史的！

戦後、墨田区で大きく増加した業種の一つが、金属製品分野の企業です。金属プレスの会社は、アメリカ向けの輸出用おもちゃの部品製造の需要が高かったことがきっかけで、増加していきました。現在、企業数は減少していますが、昌栄工業のように、独自の魅力を磨く企業が、いまも墨田区で活躍しています。

**昌栄工業株式会社**

住　　所　墨田区東向島 6-56-5

両手鍋やオイルポットもあります！
#すみだモダン

▲WEB

## まだまだ たくさんあります

「宇野刷毛ブラシ製作所」の手植えで作られるブラシは、洋服をはじめ、愛する品のお手入れにぴったりな一品。

着心地の良さで、他のシャツが着られなくなったと評判の丸和繊維工業「動体裁断＋動体縫製INDUSTYLE TOKYO」。

塚田工房から徒歩1分の「あんみつの深緑堂」。こだわりの食材から手作りされた「あんみつ」がいただける。

高級な革の端材を縫い合わせて美しい一足に仕上げた「SPIDER」など、高い技術で靴を製造し続けている「ヒロカワ製靴」。

2004年開業の「自家焙煎珈琲専門店　Cafe' Sucure'」では、1杯ずつ丁寧に抽出したコーヒーを楽しむことができる。

独自の江戸切子デザイン、動植物を描く花切子の２つの技法を持ち、新たな感性で作品を生み出す「山田硝子加工所」。

1781年に始まった両国の相撲。小さな博物館「相撲写真資料館」は、その歴史を写真で楽しめる。

セミオーダーの革製品が人気の工房ショップ「HIS-FACTORY」。手縫いのカバンづくりなど、ワークショップも実施。

すみだモダン認証商品が購入でき(一部)、インタビューも楽しめる「すみだモダン×スタイルストア」特設サイト。

## すみだものづくりまちあるき MAP

01 江戸木目込人形 塚田工房
02 向島めうがや
03 袋物博物館 / 東屋
04 IKIJI　STORE
05 宇野刷毛ブラシ製作所
06 INDUSTYLE　TOKYO
本店 / 丸和繊維工業
07 あんみつの深緑堂
08 スコッチグレイン
東京スカイツリータウン・ソラマチ店
ヒロカワ製靴
09 自家焙煎珈琲専門店
Cafe' Sucure'
10 山田硝子加工所
※電話での事前予約が必要
11 相撲写真資料館
12 HIS-FACTORY

A 東京ミズマチ®
B -両国- 江戸NOREN